

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

専門医のための遷延性・慢性咳嗽の診断と治療に関する指針 2021 年度版

NPO 法人日本咳嗽学会

株式会社前田書店 2021 年 12 月 20 日

Minds 掲載 無

■1 麦門冬湯、麻黄附子細辛湯

疾患:

咽頭アレルギー

引用など:

- 1)内藤健晴, 齋藤正治, 堀部智子, ほか. 表門冬湯を使用した持続性咳嗽症例. 漢方と免疫・アレルギー 2004; 17: 54-65.
- 2)馬場錬, ほか. 喉頭アレルギーに対する麻黄附子細辛湯の有効性について. アレルギー 2000; 29: 998.

有効性に関する記載ないしその要約:

『2 咳嗽の病態生理学-咳嗽のメカニズムとその異常-』に以下の記載がある。

『漢方薬の有効性について、麦門冬湯、麻黄附子細辛湯』についての報告がある。